

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部

〒101 8308

東京都千代田区神田駿河台1 8

日本大学理工学部土木工学科内

TEL：03 3259 0662

FAX：03 3293 3319

日大土木会会報発刊にあたって

日大土木会会長
日大教授・総合学生部長
山田 清臣

私立大学の土木工学科では、最も古い創立八〇周年の歴史を誇るが日本大学土木系学科の卒業生有志約二〇〇名が集い、二〇〇〇年三月十七日に日大土木会が発足いたしました。時あたかも二十世紀から二十一世紀へ移らんとする時にあたり極めて時宜を得た行事と存じます。その後各部会で鋭意、土木会の実行に向けて企画が検討され、ここに私共土木会の会報第一号が発刊されることは意義のある記念すべき第一歩と存じます。

幸いにして第一号に日本大学瀬在幸安総長、小嶋勝衛理工学部長ならびに作家田村喜子先生から祝詞を頂戴し、本会の素晴らしい門出となりました。先生方のご期待に添うよう初心を忘れることなく頑張りたくと祈念します。

本年三月十七日に日大土木会が発足されて半年が経ち、ここに日大土木会会報の第一号が発刊されることになりましたことを心よりお慶び申し上げます。



日大土木会の設立総会であいさつする山田会長

産と豊富な経験」を結果へと変換しようとしている時にあります。来るべき新しい社会の要請に応えるべく、志を同じくする同窓と教員が蓄積した「知的財

生は結集は大いなる意義をもち卒業生から待望されております。研究会の開催、会誌の発行、情報の交換、講演会、研究発表会等の事業を活性化し、会の活性化を計るのことが本会の目的であります。更に「国際化」「情報化」「新技術開発」「環境への取組み」「資源の再利用」「ベンチャービジネス育成」等社会の思想の大転換期に当たり、土木技術にも新しい波が押し寄せて来ていることは皆様もひしひしと感じていられることと存じます。志を高く挙げ、勇気を以って、歴史を誇る日大魂を今こそ結集し、社会への貢献に向けて大きく翔くのが私共の使命であります。

ある学部であります。中でも理工学部、生産工学部、工学部は一九二〇年に発足いたしました日本大学高等工学校を母体として発

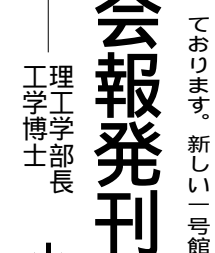


ここに日大土木会会報刊号の発刊にあたり、一言、お祝いの言葉を申し上げます。

日本大学理工学部は、本年六月で八〇周年を迎えました。ちょうど、この時期に日大土木会が発足されま

よる復興建設、さらには最近では環境問題や福祉問題に至るまでハードの分野のみならずソフトの分野まで幅広い学問に進展してまい

この時期に日大土木会が結成されましたことは、まさに、当を得たものであると思えます。八十年という長い歴史と



日大土木の出身者が一堂に集って日大土木会を結成されましたことは、誠によろこばしい次第であります。

は平成十四年には完成予定でありましたが、私共のシンボルでもあります正面玄関をホール内にレリーフとして取り入れる予定でありま

土木会設立準備委員長・山田清臣氏(日本大学教授・総合学生部長)が日大土木会設立総会の開会を宣し、設立総会参加者数二五六名の中より昭和三十年卒業の松田慎一郎氏(株式会社都市みらい整備センター)代表取締役社長)が議長に選出され、以下の議案が審議決定されました。

て、広く知識を世界に求め、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することが、わが日本大学の使命であります。

個人個人が帰属できるような組織づくりが大切であると思えます。卒業生の総数が多いことは社会において有利である反面、結束力の欠如もしくはまとまりの悪さに連なるおそれがあります。実感できる距離での組織づくりは帰属意識の回復に有用であると思えます。

きました衆議院議員・梶山静六先生(六月六日御逝去)をはじめとして、日本大学総長・瀬在幸安先生、理工学部長・小嶋勝衛先生、工学部長・小野沢元久先生、生産工学部長・大谷利勝先生より寄せられた本会の発会に対する祝電も司会の竹澤三雄氏(日本大学教授)より披露された。さらに、日大土木会役員の方々も紹介され、代表して清野茂次氏(株式会社オリエントラルコンサルタンツ)代表取締役社長)が挨拶されました。

閉会に当たり梶山静六氏(大有建設株式会社)のリードによる日大節が会場内に声高らかに響きわたる中、引き続き副会長・根本亮氏(株式会社かずさアカデミアパーク相談役)の閉会の辞で日大土木会発会式は盛会の中に終了いたしました。

土木会会報発刊を祝う

理工学部長
工学博士
小嶋 勝衛

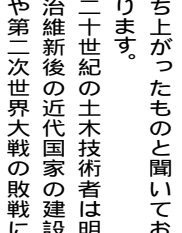
の政界、官界、業界、学界での活躍ぶりは、日本大学の鏡でありました。

【追記】
本会の発足に大きな期待をされておりました元官房長官、土木卒業生の梶山静六先生が発足直後に逝去されたのは、後輩として返えず返えずも残念でありま

ります。この時期に日大土木会が結成されましたことは、まさに、当を得たものであると思えます。八十年という長い歴史と

会報の発刊を祝して

日本大学総長
医学博士
瀬在 幸安



術の発展に寄与しようとして、二十一世紀は、豊かで、住みよい社会基盤整備が期待されております。これを治維新後の近代国家の建設や第二次世界大戦の敗戦に

伝統のある日大土木の名をさらに発展させてください。日本大学の建学の目的であり、世界の平和と人類の福祉とに寄与していただきたいと願います。皆様方の英断と勇気に期待いたします。

日大土木会の会員の皆様方、どうぞ、この会が日大土木の卒業生だけに限らず、日本大学全体、さらには世界の人人にも開かれた会として発展させて下さい。そして、世界平和と人類の福祉に寄与できる会に発展していただきたいと願っています。皆様方の英断と勇気に期待いたします。

日大土木会設立総会に引き続き開催された発会式は、場所を二階のダイヤモンドルー



256人が出席した設立総会

五つの部会が始動

円滑運営の仕組み作り

総務部会

副会長
総務部会長
日本土木工業協会
常務理事



村田 恒雄

会員の皆様、如何お過ごしですか。
おかげさまで、日大土木会発足もスムーズにたち上がり、役員一同設立趣旨にのっとり、会員の期待に沿うべく各部会とも活動を開始いたしました。
総務部会では、これまでに四回開催いたしました。総務部会の基本的なスタンスは、各部会の運営が円滑に進むような仕組みづくりをめざす。
全国各地で活躍している会員とのコミュニケーションを図る仕組みづくりを行う。
予算、決算等会計の明朗化のため、たえずのチェック体制をとる。
理事会、総会の所管を行う。

これらの具体的対策を検討するため、組織委員会、運営委員会を設けております。スタートしてみると、会則、細則等の補完、改定をする必要もでてきており、その作業と各地で活躍している会員との連携方策を検討しております。
特に後半の件は、校友会等既にあるものとの関連もあるため、今後、各地域毎の会員にアンケート調査を行い、会員に参加していただいた皆様の期待に答えたいと思います。
現在、組織委員会で検討しております。

軌道に乗るに従い、事務局の仕事が多く、事務局である日大土木教室の先生方の負担が増しており、本来の研究、教育指導に支障もでてきつつあるので、事務局の補強対策が緊急となっております。
現在、運営委員会で検討をすすめております。
また年度末までには、今年度の事業報告、決算、そして来年度の事業計画、予算を作成し、総会に提案する準備をはじめます。
まだまだスタートしてわずかであり、行き届かない点が多くありますが、役員一同、仕事の合間を利用して活躍しておりますので、ご理解いただきたいと思います。
会員の皆さん、皆さんの

声を会の運営に反映させるためのご意見をどしどし事務局、又は総務部会長宛にお寄せ下さい。
会員諸兄のますますのご活躍を祈念いたします。
(昭和34年 理工・土木卒)

事務所 日本大学理工学部土木工学科
電話 〇三 三九七三 七七八一

広報部会

副会長
広報部会長
かずさアカデミアパーク
相談役



根本 亮

活動内容として、会報(年二回程度)、会誌(年一回程度)の企画・編集および発行、ホームページの開設を考えております。会報ではお知らせとして日大土木会活動状況、大学関係ニュース、会員による談話などを中心に情報等を提供させていただきます。会誌では大学各学部の研究紹介や官民共同のプロジェクト紹介、技術資料と一歩踏み込んだ情報を提供させて頂くことを考えております。またホームページでは日大土木会の活動状況等情報はリアルタイムに提供するとともに、伝言板を設け会員の皆さんからの積極的な参加を促し、各社のホームページとリンクすることにより情報の発信源として活用して頂けるように開設する予定です。
更に広報範囲としては会員のみならず、学生や若手技術者一般の方々へも土木の役割魅力を伝え理解を深めていただき、日大土木の活動内容を広く公開したいと思っております。会報や会誌

の発行ホームページの開設により会員数が増加することを目指しております。
広報部会委員は一九名で構成しており、頻りに会議を開催し迅速に対応できるように体制を準備しております。日頃、活躍されております皆さんのご意見、ご要望を部会まで寄せていただければと思っております。
(昭和30年工・土木卒)

交流の活性化めざす

業務部会

副会長
業務部会長
都市みらい整備センター
代表取締役社長



松田 慎一郎

業務部会には、会則別第九条の規定により異業種交流委員会と生涯教育委員会が設置されることとされており、各委員会の運営方法については今後会員の意向も把握して詰めを行います。現在検討中の基本方針は以下のとおりです。
是非、皆様の積極的な参加をお願いします。

1 異業種交流委員会
本委員会は、土木会会員が広汎な分野にわたっているという特性を最大限に活用するために会員相互の交流活性化をめざし、「21C New Wave交流会」、「日大CIE人材バンク」を企画運営します。
2 生涯教育委員会
本委員会は、在学生と卒業生の生涯教育と指導に関する企画と運営を行うために組織されますが、当面は以下の内容に関する企画運営を行う予定です。
会員の生涯教育ニーズの把握
会員の生涯教育へのニーズ、求められるプログラムについて検討するために、会員を対象としたアンケートを実施する。

国際化と技術革新対応

企画部会

副会長
企画部会長
エヌイー
代表取締役社長



森元 肇夫

相互に刺激を与え合う。内容：委員会で選定した講師に専門分野における21Cの新しい動きについて話題提供をもらった後、軽い飲食を交えて懇談を行う。
運営：委員会が一年間のスケジュール(例えば、年六回)を作成し会員に配布、事前申し込み有料制で行う。
日大CIE人材バンク
目的：技術指導・支援・求人依頼に際してもよいという会員を専門分野別に登録し相互に活用を図るとともに、会員が属する団体の求人情報、人材情報の交流を行う。
内容：バンクに登録された人材を活用し、会員からの要請に応じて会員が属する組織・団体の研修等に会員の派遣を行うとともに、求人情報等の申し出を受け、会員に情報の提供を行う。

3月17日の設立総会以来半年が経過しましたが、会員の皆様には、この極めて激しい市場環境とともに、変化の激しい他産業との生産性競争の中で大変なご努力を続けられていることと思います。
さて、日大土木会の推進機構の根幹を成します総務、広報、業務、企画、研究の五部会が設置され、いよいよ各部会の活動に向けてスタートが切られました。企画部会は、産官学の方々の処々のご要望を取り込み具体的で実のある活動ができればと考え、全理事を始め、主だった方々からアンケートを頂きました。
その集約に基づいた活動方針に沿って、会員の皆様のご意見をできるだけ取り込んで、多くを求めず課題を絞って着実に事業を行っていきたく思っています。
企画部会の各委員会活動

新時代の研究部大会開催

研究部会

研究部会長
理工学部教授
原田 宏



建設業界に携わる会員の皆様にとって、今後の建設産業のキーワードは、技術革新(開発と付加価値化)、国際化のための技術レベルアップと競争力の強化、個人の基本技術レベルの向上として、以下のものがあります。
企画委員会 見学会、講演会、事業化の研究、他の委員会に属さない事項の企画と運営
渉外委員会 日本大学、その他の関連との交流と情報交換
国際委員会 世界の建設業界の動向に関する情報交換
建設業界に携わる会員の皆様にとって、今後の建設産業のキーワードは、技術革新(開発と付加価値化)、国際化のための技術レベルアップと競争力の強化、個人の基本技術レベルの向上として、以下のものがあります。
第一回研究部会の開催：九月二十一日、仙台プラザホテルで日大土木系四学部五学科教員懇談会開催前に開催した。
上記アンケート結果を踏まえ協議した結果、次の二テーマの研究委員会に絞って検討していくことになりました。
先端技術研究委員会
地球環境技術研究委員会

と総合化技術能力の強化策、外国の情報を直接、間接的に取り入れ吸収する能力などではないかと思っております。
そこで、学内の自助改革努力に加え、各部会の活発な活動との融合によって、歴史と伝統によって培われた母校の更なる発展に、継続的に貢献できるような企画と運営に向け努力いたします。そのため、フェロー的年次の方々、中堅層と若手後輩の交流の場と活躍しやすい環境創りを目指して、焦らず、着実に、会員の皆様のご意見と情報を取りながら活動し、母校を愛する会員の方々のご期待に応えて参りたいと思っております。宜敷くご協力、ご支援を承りますようお願いいたします。
(昭和33年理工・土木卒)

委員、土木史研究委員会、社会循環型技術研究委員会、都市・交通研究委員会、知的財産研究委員会
なお、上記の「建設技術研究委員会」は、その他の委員会の分野も含む総合的なもので最も高い評価点であった。また、会の運営については、各委員会の委員長および委員長の任命による幹事長、幹事数名で行うことに大多数の賛同を得た。
第一回研究部会の開催：九月二十一日、仙台プラザホテルで日大土木系四学部五学科教員懇談会開催前に開催した。
上記アンケート結果を踏まえ協議した結果、次の二テーマの研究委員会に絞って検討していくことになりました。
先端技術研究委員会
地球環境技術研究委員会
この「日大土木会 研究部会大会(仮称)」については追って詳しい案内を送りいたしますので、会員皆様の積極的な参加をお願いする次第です。
(昭和30年理工・土木卒)

学内ニュース

大津教授・安田助教・石川講師、ASCEのカール・ヒルガード・ヒルガード水理学賞(Karl Emil Hilgard Hydraulic Prize)を受賞



理工学部土木工学科の大津岩夫教授、安田陽一助教、短期大学部三島校舎の石川元康講師がASCE(アメリカ土木学会)から二〇〇〇年度のカール・ヒルガード水理学賞を受賞された。

同賞はASCEの水理学・水工学系論文誌に掲載された論文のうちの最優秀論文一編に与えられるもので、一九三九年に同賞が制定されて以来、これまで水理学の分野で世界の指導的立場にある研究者が受賞してきた栄誉ある賞である。日本人の受賞としては、一九八四年の池田(東工)



ASCEの学会で代表で賞を受ける安田助教

大)・浅枝(埼玉大)両教授、一九八七年度の橋津(京大)・ロディ(カールスルーエール大)両教授に続くものである。同賞の受賞

は、国際化が進んでいる今日、わが国の水理学・水工学研究の国際的評価を一層高めることになり、さらに本学にとって、大変喜ばしいことである。

受賞論文はJHE(ASCE水工学論文誌)、二二五巻一九九九年五月号に掲載された急流水路の潜り跳水(和訳)であり、急流部の流れの複雑な流況を系統的的研究によって明らかにしたものである。

大津教授・安田助教は従来から、各種の水路や水理構造物周辺における射流から常流へ遷移する流れについて系統的研究を行なっている。この研究の一部は

総長指定研究「水環境と人間」プロジェクト(平成八年度)平成十年度)としても実施され、今回の受賞論文はその成果を含むものである。

受賞式は二〇〇〇年八月二日三ツネアポリスで開催されたASCE主催の水理学・水工学系学会で行なわれ、賞状および楯が授与された。

上西安理工大との共同セミナー下地盤免震装置を用いた加振実験を公開



共同セミナー開催

西安理工大と理工学部

十月二十日(金)に日本大学理工学部船橋校舎図書館視聴覚教室(大)にて、第二回西安理工大学・日本大学理工学部共同セミナーが開催された。これは、中国西安理工大学と日本大学理工学部間の学術交流の一環として、昨年九月九日に西安理工大学にて土木工学分野の水環境および水資源開発に関する諸問題を、基本課題として開催された。第一回西安理工大学・日本大学理工

学部共同セミナーに続くものである。セミナーでは、中国(西安理工大学)・韓国(韓国中央大学校)・日本(日本大学理工学部、東京都)の水環境および水資源開発に関する諸問題に取り組んでいる複数の研究者の各研究成果が紹介され、活発な議論と幅広い意見交換をして盛会裏に終了した。

セミナー終了後、同校舎ファラデーホールにて校友・学生を含む約一〇〇名

文部省学術フロンティア推進事業環境・防災都市共同研究センターを公開

理工学部創設八十周年記念式典開催

日本大学理工学部は、前身の日本大学高等工学校が一九二〇年六月に創立され、今年で八十周年を迎えた。それに伴い平成十二年十月二

土木の日 記念「故郷の歴史に学ぶ土木の歴史」公開講座を開催

安積疏水二二〇年

「安積疏水シンポジウム」

安積疏水は、明治政府による安積開拓の幹幹事業として、猪苗代湖の水位を調節し、当時原野であった安積平野へ分水嶺を越えたトンネル掘削により導水を実現したものです。

疏水によって安積平野は豊かな穀倉地帯へと変貌し、

「土木の日」記念の「安積疏水シンポジウム」は、多数の参加者の好評を得た。

なお、同研究は、理工学部土木工学科の塩尻弘雄教授(構造力学)を中心に花田

和史教授(地震工学)、島崎敏一教授(交通計画)、鈴木順一講師(数値力学)、梅津喜美夫講師(土質力学)らが共同で進めている。

シンポジウムは、土木学会東北支部との共同主催のもと、安積疏水土地改良区、郡山市当局はもとより、建設省東北地方建設局、郡山地域テクノポリス推進機構よりパネリストを迎え、土木工学科藤田龍之教授をコーディネーター、長村久夫教授をコーディネーターとして、「土木の日」である十一月十八日に開催致しました。

当日は、会場となった工学部五十周年記念館大講堂において一般市民四名を含めた工学部学生等一四〇名参加の盛況となり、郡山市と安積疏水の関連の深さ、市民の関心の高さを改めて実感できるイベントとなりました。

各パネリストからは、将来に向けての疏水活用への考え方がそれぞれ提示され、産官学の連携の重要性、新たな地域づくりに向けての意見交換と提言がなされました。

パネリストは、スウェーデンの要約を紹介致します。

「安積疏水に関わる市民の関心が薄れつつある中で、疏水が郡山市の発展に与えた効果・恩恵、その影にある先人の努力と苦勞を改めて認識しなければならぬ。また、将来に向けては、水資源としての利活用に加え、市内に存在する水路網を活かしたコミュニティ基盤の創出など、市民の意識の中で疏水の存在を風化させない利活用も必要である。」

なお、工学部では、土木学会東北支部との共同主催により、次年度以降も引き続き、故郷の歴史に学ぶ土木の歴史シリーズの公開講座を開催していく予定です。

(工学部広報部会委員 佐藤洋一)



「土木の日」記念「故郷の歴史に学ぶ土木の歴史」公開講座を開催

安積疏水二二〇年

「安積疏水シンポジウム」

